

【再稿(修正原稿)等の提出に際して】

学会誌編集委員会

査読者の指摘事項を反映させた再稿(修正原稿)等の提出は次の要領で進めて下さい。

(1)査読者の指摘事項に対するあなたの対応を説明する「修正箇所一覧(対応一覧)」を準備する。この修正箇所一覧は、査読者毎にファイルを分け作成し、PDF ファイルで提出する。自分の氏名がファイルに残らないように、プロパティーなどからも氏名を消去する。

(2)査読者に渡すクリーンな再稿原稿を PDF ファイルで提出する。自分の氏名がファイルに残らないように、プロパティーなどからも氏名を消去する。

(3)編集委員長が手元にキープする Word の再稿原稿を提出する。これらのファイルは、伊藤和憲のアドレス(itoh”あつと”isc.senshu-u.ac.jp)に送付願います。

【修正箇所一覧(対応一覧)の参考例】

15-01-27(12003-2 再査読所見 k)に対する修正事項

論文タイトル:

「経営者利益予想に見られるラチェット効果と予想誤差への影響—管理会計からのアプローチ—」

指摘事項	論文の修正
<p>P8、下から 6 行目の注 11： 2008 年のリーマン・ショックの時の検証は行われているが、90 年代後半の日本の金融危機については行われていないようである。90 年代後半についてはデータの検証が必要である。</p>	<p><修正原稿における対応部分></p> <p>ご指摘の事項への対応として、14 - 15 ページに「6.3. 追加的分析」を加えました。この部分に、1990 年代の金融危機とリーマン・ショックの影響を取り除いた分析結果を要約した表を新たに追加いたしました。</p> <p>具体的には、指摘事項に沿った分析を追加で実施した結果、これまでの分析結果と類似した結果が得られました。これを明示するため、14 - 15 ページに、表 4（本文にてご確認ください）と以下の記述を追加いたしました。</p> <p>「1997 年から 2012 年のサンプル期間は、いわゆる 1990 年代後半の金融危機、2008 年のリーマン・ショックを含んでいる。年度に関するダミー変数 FY_t が、(4)式と(6)式には組み込まれているとはいえ、経済の混乱期において、利益目標の設定そのものが影響を受ける可能性を否定できない。そこで、1990 年代のデータと 2008 年のデータを除外した分析も実施した。フル・モデルに基づく(4)式と(6)式それぞれの推定結果の主要な部分のみを表 4 に示す。表 4 の結果は、係数の大小関係および符号条件の点で、表(2)および表(3)の結果と概ね一致している。」</p>